

# 第3回 秋田ものづくりオープンカレッジ2018

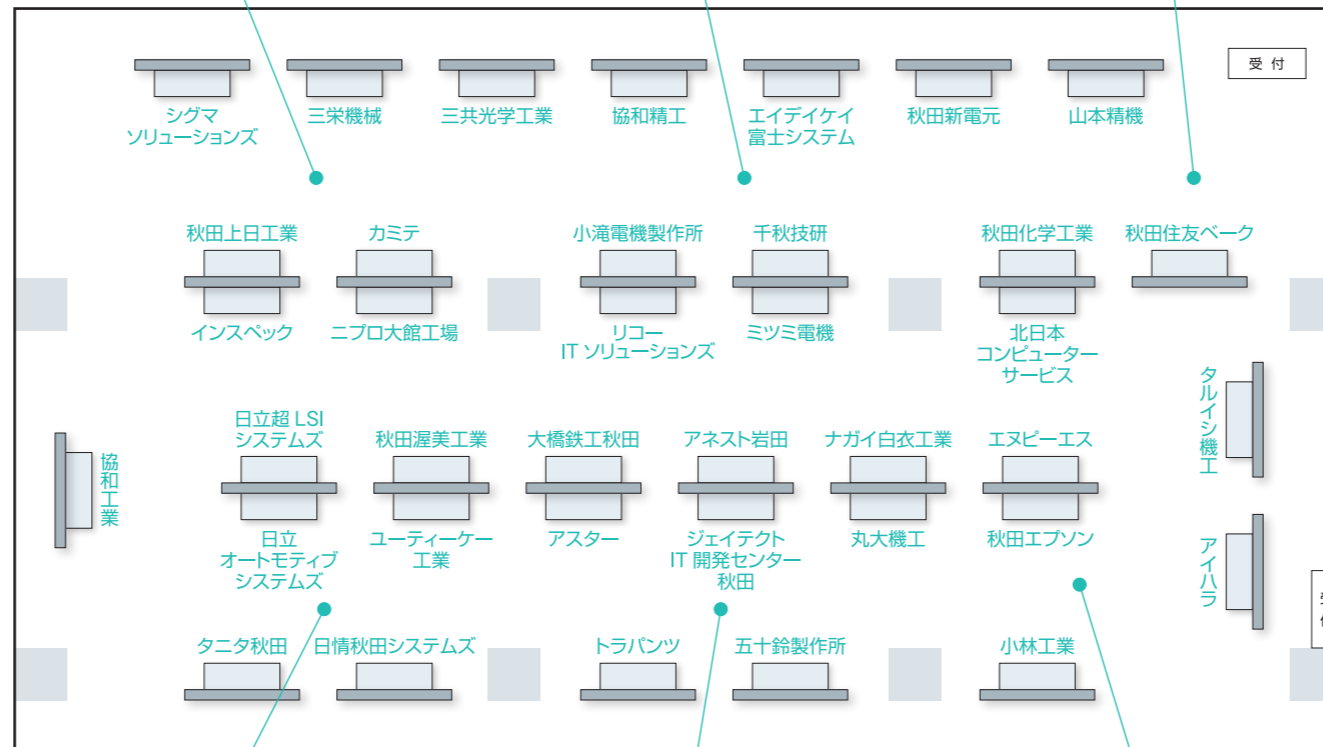
開催内容 学生・教職員向けに、県内企業のPR展示と医工連携に関するセミナーを秋田県立大学ならびに秋田大学で開催

## 県内企業をもっと身近に

県や各大学は「秋田ものづくりオープンカレッジ2018」を秋田県立大学(10月17日)と秋田大学(10月23日)の2会場で開催、当センターは共催として企画・運営に携わった。このイベントは、ものづくりに取り組む県内企業を学生にもっと身近に知ってほしいとの思いにより、2016年10月に第1回を秋田大学で実施。2017年からは県立大学を合わせた2会場での開催となり、今年で3回目を数える。初年度から参加する自動車や航空機産業の関連企業に加えて、近年は医療福祉機器や情報分野などが増え、今年は38社が「第1部 あきたの元気なものづくり企業展」に出展した。

大学構内に設けられた特設会場では、各企業が工夫を凝らした展示を用意した。各社とも、自社の知名度・浸透度の低さに課題がある点は共通しており、どのようにして自社を知ってもらい、興味を惹くことができるかが鍵になるためだ。しかも、普段のBtoBの展示会や商談とは異なり、相手は学生である。そのため、自社の製品を手にとってもらい、動作を見せたり、実際に操作してもらったりすることで、まずは“体感させること”に主眼を置き、その上で会社の概要や全体像を伝えていくといった仕掛けも見られた。

学生らは講義の合間やお昼休みの時間を活用して訪れ、県立大学が251名、秋田大学が258名となり、いずれも昨年の実績から2~4割ほど増加した。自分の専攻・研究分野とのつながりや企業所在地をきっかけに興味を示す学生があり、「こんな身近な製品が秋田で作られていると知って驚いた」「自分の家のそばにこの会社があるのは知っていたけど、どうしている会社なのか全然知らなかった」といった声が寄せられ、“伝える機会、知る機会”が企業・学生の双方にとって有意義な場になったことが窺えた。



「第1部 あきたの元気なものづくり企業展」秋田大学開催時(10月23日)の様子



### イベント概要

平成30年10月17日(水) 秋田県立大学 本荘キャンパス

第1部 あきたの元気なものづくり企業展

第2部 世界にはばたくものづくり講演会

- ①『医療業界の将来展望について』  
株式会社セントラルユニ(東京都) プロジェクト推進部PJ推進チーム 岡崎 友史郎 氏
- ②『遺伝子検査が拓く未来』  
エヌピーエス株式会社(大館市) 代表取締役社長 池田 秀雄 氏

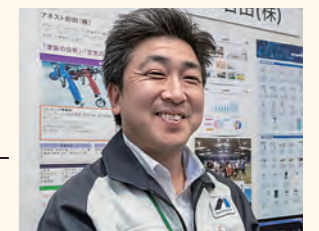
平成30年10月23日(火) 秋田大学 手形キャンパス

第1部 あきたの元気なものづくり企業展

第2部 世界にはばたくものづくり講演会

- ①『医療業界の将来展望について』  
株式会社セントラルユニ(東京都) 経営管理部 部長 濱川 徹也 氏
- ②『遺伝子検査が拓く未来』  
エヌピーエス株式会社(大館市) 代表取締役社長 池田 秀雄 氏

### 参加者の声①



アネスト岩田株式会社 秋田工場  
スプレーガン試作技術チームリーダー  
澤田 伸祐 さん

当社では、主にスプレーガンや空気圧縮機(コンプレッサ)等を製造・販売していますが、生活シーンのどんな部分に使われているのかを伝えることで、まずは身近なところから興味を持ってもらい、そこから会社の全体像を知ってもらえるよう心がけています。自己申告制度を利用することで、希望の職種や秋田の勤務地だけでなく本社の横浜も含めて、フレキシブルに働ける土壌もありますので、理系文系を問わず様々な人材を採用したいと思っています。

### 参加者の声②



ミツミ電機株式会社  
秋田事業所事業 所長  
松本 仁 さん

当社では、世界トップシェアを持つ電子デバイスを多数設計・生産しており、「ものを通して世界を幸せにしたい」と考えています。国内が設計開発拠点のため、エンジニアを中心とした採用になりがちでしたが、このようなイベントでPRする機会もありませんでした。今後は、電子機器市場の拡大に伴う海外進出へ向けた増員に向けて、モノづくりに情熱のある学生を幅広く求めていきたいと思っています。県内でも世界を相手した大きな仕事ができることを知ってほしいですね。